

速さ比べ

算数では「速さ」を学習しました。少し遅れましたが、いろいろなものの「速さ」を調べてみました。早いものから順に行きましょうか。

真空中の光	時速10億7925万2849km
地球の公転	時速10万7299km
アポロ10号	時速3万9895km
スペースシャトル	時速2万6000km
長距離ミサイル	時速2万4500km
ライフル	時速3510km
自動車の最高音速	時速1240km
リニア	時速581km
日本の最大瞬間風速	時速307km
ハヤブサ（鳥）	時速300km
野球の球速	時速164km
チーター（獣）	時速100km
バショウカジキ（魚）	時速100km
戦艦	時速61km
陸上100m	時速37km
陸上マラソン	時速20km
水泳クロール	時速8km
徒歩	時速4km
ナマケモノ（獣）	時速0.288km
カタツムリ	時速0.006km
髪の毛の伸びる速さ	時速0.0000125km

こっそり教えよう、飛鳥でのこと

今週の作文です。今週は「こっそり教えよう、飛鳥での出来事」。先週の金曜日に出かけた飛鳥への遠足で、誰も

知らないことをこっそりと教えてください。

「よ・た・こ・た」

算数の文章問題、キミたちが一番苦手とするもののひとつですね。その文章題では次のような力が求められます。

文章から式を導く。

これが一番の関門です。文章の中から「骨の文」を見つけると楽ですね。

式を解く。

まずはよこ式といわれる式を作ります。そして補助計算を筆算などで行い、答えを導くのです。

ところがせっかく一番の難関であるをクリアしても、でつまずくケースが目につきます。それは、答えが抜けていたり、答えの単位を忘れていたり勘違いしたりといったものです。これらはちょっとした注意でふせぐことが可能なのです。

そこで文章問題の「呪文」です。「よたこた」です。

よ：よこ式を書く。

た：たて式（筆算）で補助計算をする。

こ：こたえを書く。

た：たんい（単位）を答えにつける

文章題には「ハイ！よたこた。」でバッチリ点検！

今週金曜日作文を清書します。

ので、黒ボールペンと作文ノートを！

酸素半分と二酸化炭素半分だと...

理科の授業で「酸素にはものを燃やすのをたすける働き(助燃性)がある」ということを学習しました。確かめるために酸素(O_2)の中だとろうそくは激しく燃えることは理科室の実験でわかりました。

そこで教室で次の実験をしました。酸素の中でスチールウールを燃やしました。当然のことながら空気中よりも激しく燃えました。「花火みたい!」そしてそのあとに石灰水を入れると...

みんなは「白濁する(白く濁る)」と言いました。実際に石灰水を入れてみると白濁しないのです。そうです。スチールウールは鉄(Fe)で炭素(C)を含まないので二酸化炭素(CO_2)は発生しないのです。炭素(C)を含むものが燃えると二酸化炭素(CO_2)ができるのですね。

2 つめの実験は酸素と二酸化炭素と集気瓶に半分ずつ、つまり集気瓶の中は酸素 50% 二酸化炭素 50% になっています。(空気中では酸素約 20%、二酸化炭素約 0.03%です。)

「さてこの中に火のついたろうそくを入れて見るとろうそくの火はどうなるでしょう?」

ア 空気中よりも弱くなる。

イ 空気中と同じ。

ウ 空気中よりも激しく燃える。

予想をしたところみんなは「空気中より弱くなる。」理由を聞くと、「二酸化炭素が空気中より多いから、燃えにく

くなる」が大半でした。そして実験です。結果はというと...

そうですね。空気中より激しく燃えました。燃えるのに関係しているのは酸素です。酸素があるかないかなのですね。

マメコブシガニ



先週です。クラスの子がカニを持ってきてくれました。でも子どもたちは「このカニって食べられる?」???何?学校で飼ってるカニはサワガニで食べられるけどね、って言おうとして見てみると、なんと海のカニ!これって海水で飼う?

担任はその日に一ナンで海水の素を買ってきたのです。でも調べてみるとそのカニは「マメコブシガニ」といいました。次の日かわいそうに大部分がなくなりましたが1匹は何とか生きていました。

マメコブシガニ

河口部汽水域から前浜干潟に生息する。干潟の表面をヒョコヒョコと歩く。甲羅は2センチぐらい。甲羅は丸くて、とても硬く、拳のよう。甲羅表面には小さな顆粒が散在し模様はいろいろなバリエーションがある。移動の時、横ほぶくせんしんに歩かずに前に匍匐前進のように歩く。バックも出来る。